

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100520		
法人名	有限会社 ナーシングケアセンター		
事業所名	グループホーム ふれあいの家 備後		
所在地	埼玉県春日部市備後東5丁目5-1		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1171100520&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社You'sキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした笑顔をモットーとしています
利用者様も職員共になごやかに、にぎやかに、楽しい1日で良かったと思える1日1日を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは住宅街にあり、緑のある静かな生活環境の中、2ユニットで運営されている。隣接にはホームの菜園があり、入居者は職員と共に野菜作りに励み、育てる、収穫する、食する事を楽しみにしている。又、各種のアクティビティに参加し、生活を楽しくしている。管理者やスタッフは、より質の高いケアを目指し、自主勉強会や研修会に参加し、人材育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と自分らしく、理念に基づく生活の継続を心がけています	理念に基づいて「笑いの絶えない楽しいホームを！」をモットーに、入居者と職員一人ひとりを見て、個人の生活を支える事を大事にして介護実践に取り組んでいる。職員は毎日理念を声に出して確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会集会への参加 回覧板を入所者と回していく、近隣との語り、あいさつ等で交流している	自治会の総会に出席し、地域のクリーン作戦にも参加している。地域の方には運営推進会議に出席頂く事で関心を持って頂き、ホームへの訪問も増え、良い関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会集会等や運営推進会議等で啓蒙している 民生委員と連携をとり、窓口は開けているつもり		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々の協力で、会議は活発な話し合いがあり、サービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。当ホームの現状報告だけで終わるのではなく、社会情勢にあったテーマを設け、諸問題について熱心に検討している。会議録を作り、皆で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当職員とはコミュニケーションが取れていて、相談する事もある	市の担当窓口とは相談や情報交換等を行い、良好な関係が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の三原則を職員と話し合っている。 玄関・駐車場は開放している	身体拘束や行動の制限は行っていない。入居者の安全をどう守っていくか色々なケースを検討し、勉強会の中で理解を得ている。一人ひとりの入居者の状態に合わせ、落ち着いた生活が過ごせるよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加後、カンファレンス時に伝達研修を行ない周知に努めている。 施設内での職員の言葉使い等も常に注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、施設内伝達研修で知識を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に質問がしやすいよう、配慮しながら説明している。 契約書は読み合わせて確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援相談員の受入を行っている。 意見箱を置いている。 運営推進会議、担当者会議、時に個人的な話し合いをしている	市からの支援相談員が入居者や家族と面談し、その内容を伝えて頂き、参考にしている。 又、運営推進会議の内容を文章化して、意見が反映出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や又日常に於いても職員の意見に耳を傾けている。 グループホーム間の連携会議での意見交換もある。	職員の意見は、管理者のヒアリングや顧問の方の面接等で声を聞くように努力している。経営者、管理者は、スタッフの声を収集し、責任者会議で検討し、改善に向けて対処している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員とのコミュニケーションを大切に、勤務状況等把握し、賃金アップや、社内研修、やりがい等、処遇改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修マニュアルを整備したり、力量による個別指導を行ったり、研修会参加に対し奨励したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や、包括支援センターでの勉強会へ参加し、同業者間の交流を積極的に進め、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所受付相談や入所前の面接時の聞き取り等、 本人の意思を確認できる問いかけ、安心感を与える接し方を、管理者、フロア長、担当職員等で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に複数回面接し、家族の話を良く聞き、話しやすい接し方等努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当面の計画書を作成する際、本人・家族の意向を重視し尊重している。 在宅でのサービス事業所等の話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験を積み重ねて来られた年長者としての尊敬を持つこと、家族的で共に支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の話に耳を傾けて、家族の出来ない部分を職員が援助する。 外出のお手伝いや通院等家族にお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の来所は自由に行っている。 外出も奨励、本人が望む場所へ連れて行きたいと企画している	馴染みの関係が断たれないようサポートしている。やりたい事は束縛せずに、個人の意志を尊重し、実現出来る方法を考えて支援している。行きつけの美容院へ連絡をとりながらタクシーで出掛ける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しとの席を隣合わせにしたり、利用者同士、部屋で語りあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所サマリー等で連携をとっている。 退所した後も、「困ったこと、悩んだ時は、いつでも相談に来てください」と伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別で表情を見ながら答えやすい問いかけで本人の意思を確認している。重度の方にはセンター方式でカンファレンスしている。	入居者のちょっとした声に耳を傾け、希望にそえるよう努力している。カンファレンスの中で静かに音楽が聞きたいという情報があり、家族と相談して音楽を聞きに行けるよう支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時アセスメント、入所後本人、家族との会話等、話し合いを重ねながら詳しく情報を得られるように、これまでの生き方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を決め、その人にあつた、1日の生活リズム、日課の組み立て等、常に話し合い、改善、見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時やその人の身体機能が変った時等、計画担当、家族、担当職員・リーダーで担当者会議を行ったり、職員全体でカンファレンスを行っている。	本人や家族の情報に基づいてアセスメントシートに記入し、チームで検討しながら介護計画を作成し、実践した後に評価もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や計画担当者の観察記録を行い、仕事に入る前には必ず確認する。気づきはお互いに意見を出し合い、職員間で問題点を考え、話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急通院の職員対応、行事や外出等の付き添いに、他職員の応援を依頼したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院の受入や、近隣の方に畑作りのアドバイスを頂いたり、近くの店へ買い物へ行く際、店側の協力を頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期受診の他に、専門医は家族との話し合いで決めている。眼科、整形外科等在宅時の医師に継続受診する場合もある	協力病院から月2回往診があり、看護師やスタッフも同席し、健康状態についてのアドバイスを受け、ケアの実際に生かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを活用し、事業所内看護師と連携、入浴時の観察、体調の変化、薬の件等24時間相談できる。協力医療機関の担当看護師も往診に立ち会うので相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先での状態把握、病棟看護師、相談員との連携を行い、家族の相談に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化介護、ターミナルや延命処置等の話し合い、必要時には同意書を交わす等、取り組んでいる	入居時に重度化した場合の事についても説明し、納得頂いている。昨年のアンケート調査で、家族は対応出来るぎりぎりの所まで入居を継続させてほしいとの事であったが、心身の状況に合わせて看護師の協力のもと、入居者にとって最善の方法を皆で検討し、対応出来るよう学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスで話し合いを行っている。緊急時対応は図にして掲示してある。実技については、今年度は実施できていないが、救急処置AEDの講習を前年度受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の対策は運営推進会議の際、消防署の出席を依頼し助言をもらった。地域との協力体制も話合った。	認知症対応型の住宅では、災害への対応は難しいが、消防署や近隣の方のご理解と協力をお願いし、災害に備えるよう努力している。環境チェックを行い、火災につながらないよう注意している。	ホーム全体で防災に熱心に努めているが、職員が声掛けの方法や、どういった順番で誘導するのか等、防災や避難訓練を日常の勤務の中でイメージ出来るような見やすく、理解しやすいフローチャート等の検討が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にうたってあり、人格を尊重した接遇の仕方言葉遣い等は日常職員で話し合っている。職員間で注意しあうこともある。	職員心得に基づき、必要に応じて勉強会を行っている。入居者に嫌な思いや、恥ずかしい思いをさせないよう常に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい問いかけに配慮し、表情、態度の中に心の中の訴えを知る努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応に努力している。 朝の起床時間の時間差対応をしたり、個別の要望を聞いて外出支援を行ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、外出時には衣服の助言を行ったりしている。定期的な訪問理容で散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の写真を見ながら、一人ひとりに話題を引き出し把握をしている。 行事食や季節を感じる食べ物等検討し、切る、丸める、盛り付け等共に行っている。	摂取カロリーが問題となった為、嗜好調査やカロリー調査を行った。それをもとに皆で対策をたて①食事の場の雰囲気作り②嚥下リハビリ体操③BGMなど工夫している。献立委員会を作って入居者にそった食事が提供出来るよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記入や1週間のカロリー摂取量の計算を行い、献立についての話し合いを行っている。食欲の無い人には特別メニューで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回口腔ケアを行っている。 歯科医師、衛生士の協力、指導もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のカンファレンスで、排泄パターンやトイレ誘導等介助方法を検討し自立に向けて介護している。	排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を記入し、看護師と連携しながら、水分摂取、トイレ誘導を増やしたり、繊維性食材に注意したり、薬剤の調整を行っている。問題行動と排泄との関係性等カンファレンスで検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設内入浴日を週4回設定している。個別入浴も対応できるよう話し合っている。	週4回の入浴の機会がある。プライバシー確保についても良く配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の昼寝は全身状態に応じて、自由に行っている。夜安眠できるよう、日中外気に当たる等眠らない工夫を行い、夜は加湿器にアロマを入れて精神安定の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬処方箋綴りがあり、すぐ見られる。全職員に副作用等連絡帳で周知し注意している。副作用を考えられる時には看護師と連携し服薬方法について検討している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じて洗濯干しや掃除、日めくりカレンダーをめくる等、役割を持っていただいている。個人の好きな郷里にちなんだ歌をうたったり、男性利用者にはスポーツ新聞をとって読んでもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、近くの100円ショップに出かけたり、職員の付き添いで美容院へ行ったり、病院の売店で買い物支援したりしている。	天気が良い日は近くに散歩に出掛けている。外食は楽しみの一つであり、デイサービスの車を使い、ユニット合同で外食に出掛け、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	パンの移動販売に来てもらい、好きなパンを自分で買う機会を支援したり、近くの100円ショップに買い物付き添い支援したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしてほしいとの希望に対応している。手紙を読んであげたり、年賀状を出せるよう支援したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、整理整頓・清潔、季節感(季節の花・雛飾り等季節の行事にちなんだ飾りつけ)を出すように心がけている。冷暖房の調節、明るさに注意している。	明るく清潔なフロアである。明るく優しい雰囲気作りがされていて、生花が飾ってあり、居心地の良い空間となっている。入居者同士で体調を気遣ったり、お茶を運んだり、おもてなしの気持ちが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳にコーナーにソファを置いて、ゆっくり座れるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物入れ、飾り棚、家族の写真等飾って自分らしい部屋作り、本人が満足できる部屋作りを職員、家族、本人と共に作っている。	入居者の馴染みの鏡台、仏壇、家具や写真、ラジカセ等日頃使い慣れた物に囲まれ、清潔感のある居心地の良い個室となっている。部屋にポールが立っていて、立ち上がりや座る時に安全に使われている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーで、安全に移動できるよう手すりが取り付けられている。トイレの表示や、自分の部屋が分かるように名前の表示や家族に花の鉢を持参してもらう等工夫している。		